

令和6年度 第2回八戸市生活支援体制整備推進協議会 議事録

○日 時 令和7年2月17日（月）午前10時30分から午前11時40分まで

○場 所 市庁別館2階 会議室B

○出席委員 五十嵐 潤 委員、池田 右文 委員、荻ノ沢 哲也 委員、立石 真司 委員、
橋本 百子 委員、水溜 広 委員、
※ 中里 雅恵 委員、堀内 美佐江 委員は欠席

○事務局 町井 健二 高齢福祉課長、江渡 聰子 地域包括支援センター所長、
島田 拓巳 主幹、柏崎 雄介 主査兼社会福祉士
岩間 歩乃佳 主事兼社会福祉士、

次第1. 開会

■司会（江渡地域包括支援センター所長）

それでは、定刻となりましたので、ただ今より、令和6年度第2回八戸市生活支援体制整備推進協議会を開会いたします。

本日の会議でございますが、委員8名中6名の委員が出席しており、半数以上の出席となつてございますので、「八戸市生活支援体制整備推進協議会規則」第5条第2項のとおり、会議が成立することをご報告いたします。

開会に当たりまして、池田会長よりご挨拶をお願いいたします。

■池田会長

皆様、こんにちは。ご無沙汰しておりました。年が明けて、今年初めての会議になります。今年もよろしくお願ひいたします。

最近、生活支援体制整備事業が求められてきていて、地域の在り方というのも問題になっていますので、この場で八戸市としても、皆様とお話ををして、よりよい施策につなげて行ければと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

■司会（江渡地域包括支援センター所長）

ありがとうございました。

それでは、議事に入りますので、ここからの進行は、池田会長にお願いいたします。

次第2. 議事

■池田会長

それでは議事の方に入らせていただきます。

まず、（1）住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告について、事務局よりお願ひします。

（1）住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告

■事務局（柏崎主査兼社会福祉士）

地域包括支援センターの柏崎です。私から、議事1、住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告について、説明をさせていただきます。着座にて、説明させていただきます。

第1回の当協議会において、8月に三八城地区で開催したワークショップについて、ご説明させていただきましたが、11月30日に吹上地区で、12月1日に長者地区で、それぞれ第2回目、第3回目のワークショップを開催いたしましたので、その内容についてご説明させていただきます。

それでは、吹上地区の内容につきまして、資料1-1をご覧ください。

11月30日土曜日の10時から、吹上公民館にて開催いたしました。参加者は22名で、地域関係者が13名、八戸学院大学の学生が6名、高齢者支援センターが3名となっております。地域関係者として、民生委員や町内会のほか、地域にある福祉施設の職員やハウスメーカーの職員にも参加していただきました。また、認知症のある本人にも担当ケアマネジャー付き添いのもと参加していただきました。

概要は記載のとおり、高齢福祉課と八戸学院大学の大木先生より話題提供を行った後、メインであるワークショップでは、「吹上地区での生活について考える」をテーマに、7、8名ずつの3グループに分かれ、地域における課題やその解決策について意見交換を行いました。

各グループから出た意見の主なものを属性別にまとめておりますが、【公共施設、道路、交通】に関しては、道幅が狭いことや坂が多いなどの道路事情に関する意見や渋滞するといった交通事情に関する意見が多く聞かれました。また、中には、「自動車が無いと高齢になってからの生活が難しい」という、しばしば課題として取り上げられる高齢者の免許返納につながるような、切実な意見も聞かれました。これらに対しては、「児童が下校する時間帯に見守りを行う」や「地域にある企業や施設から協力を得て送迎支援を行う」といった意見が出ていました。

2ページ目にまいりまして、【町内会、住民同士の交流、イベント】に関しては、「町内会活動の低下」や「加入者と非加入者の間での課題」といった町内会が抱える問題のほか、高齢者同士であったり、世代を超えての交流の機会が減少しているという意見が聞かれております。

次に【生活】に関しては、買い物などの外出や雪かき、ゴミ出しなど、日常生活において困難さを感じているという意見が多くあがり、解決策として、ボランティアの活用や総菜の自販機を設置するといった意見が出されていました。また、銭湯や映画館などの娯楽施設が無いといった意見も出ています。

また、特徴的だったのが、【空き家】に関する意見が出ていた点で、空き家に関しては、今や市全体における課題となっていますが、吹上地区においても、空き家が年々増加しており、管理がされていないことで、隣家や道路へ草木が出て来て困っているという意見がありました。

今回出された意見については、各参加者が今後の生活や地域で活動を行う中での手掛かりとしてしていただくほか、高齢者支援センターや市包括が事業を進めていく上での参考として活用できればと考えています。

次に、ワークショップに参加した方に記入いただいたアンケートの結果について、資料1-2によりご説明いたします。

出席いただいた22名全員からアンケートに回答いただきました。居住地区や年代、地域における活動については、グラフのとおりとなっております。年齢については、学生を含めると20代から80代まで満遍なく出席いただけたと感じています。また、今回は学生の皆さんも都合がつき、大勢参加いただけて良かったと思います。

2ページからは各設問に対しての回答内容になりますが、まず、1参加した感想について

は、22名全てが「参加して良かった」と回答いただきました。いただいたご意見については、記載のとおりとなっておりますが、全体的に、普段関わる機会の少ない立場や年代の方と意見を交わすことで、新たな意見や情報に触れることができたて良かったという意見が多くありました。

3ページにまいりまして、2今後も継続すべきかについては、21名が「継続すべき」、1名が「何ともいえない」と回答しました。こちらについては、意見交換をする機会は必要だという意見や課題はすぐに解決するものではない、だからこそ継続すべきといった意見をいただいています。なお、「何ともいえない」と回答いただいた方からは「地域のメンバーだけで進めることは難しい」という意見がありました。

3改善点についてですが、より多くの参加者を求める意見や、様々な立場、年代の参加を求める意見がありました。参加者について、今回は学生の参加も多く、比較的、様々な立場や年代の方に参加いただけたと感じていましたが、より様々な立場、年代の方に参加いただけるよう工夫していきたいと考えています。また、開催時期についても、冷え込んでくる時期の開催となっていましたので、計画的に準備を進め、参加者が負担なく参加していただけるように努めたいと思います。

4ページにまいりまして、4学生が参加したことの印象について地域関係者に対して聞いた設問ですが、学生の皆さんが話し合いの進行や意見のとりまとめ、発表など、積極的に参加していただいたことに対して、評価する意見が多かったです。

また、5地域の方と接しての印象について学生に聞いた設問でも、実際に地域に入って話を聞くことでの気付きが多かったようで、それぞれにとって有意義なものになったと感じました。

続きまして、長者地区で開催したワークショップについてご説明いたします。資料1-3をご覧ください。

吹上地区の翌日、12月1日日曜日の10時から、長者公民館で開催しました。参加者は16名で、地域関係者が11名、学生が3名、高齢者支援センターが2名となっております。なお、地域関係者として、民生委員や町内会のほか、地域にある薬局の薬剤師や福祉施設の職員などにもご参加いただきました。

開催概要は吹上地区と同様です。

グループワークで出た意見ですが、【公共施設、道路、交通】に関しては、街灯がなく夜間危険である、駐車場が少ない、道幅が狭いなど様々な意見が出ていました。

【町内会、住民同士の交流、イベント】に関しては、やはり吹上地区同様に、町内会の加入率低下について意見が出ており、町内会長の顔出しや見える化など、開かれた親しみやすい町内会にしていく必要がある、という意見が出ていました。また、近所づきあいや集まる場所が減っているという意見も聞かれました。これに対しては、老人クラブという名称を変更し、若い人も招き入れて活動をするなど、これまでの価値観にとらわれない、ユニークな意見も聞かれました。

2ページ目ですが、長者地区は、【生活】に関する意見の中でも【買い物】に関する意見が多く出ていたのが特徴的で、近所で買い物ができる場所が無いや、営業時間が短いなどの意見が聞かれています。【生活】に関しては、やはり、雪かきやゴミ出しに特に苦労されているようでした。

吹上地区同様に【空き家】問題は意見として出ており、解決策として、空き家カフェやサロン、野菜作りなど、活用方法について様々な意見があがっていました。出された意見については、吹上地区同様、各参加者や高齢者支援センター、市包括それぞれの立場で、

今後につなげていければと考えております

次に、参加者アンケートの結果について、資料 1-4 をご覧ください。こちらも、16 名全員から回答いただけました。居住地区や年代、地域における活動については、グラフのとおりとなっております。

2 ページにまいりまして、設問に対する回答になりますが、まず、1 参加した感想については、16 名全てが「参加して良かった」と回答いただきました。いただいたご意見については、吹上地区同様に、色々な話が聞けて良かった、楽しかったといった意見をいただきました。

2 今後も継続すべきかについても、16 名全てが「継続すべき」と回答いただき、中には、困り事は絶えないので年 4 回はやりたいと、意欲的な意見もありました。

3 ページにまいりまして、3 改善点についてですが、やはり、より多くの参加を集めるべきとの意見が多く、若い世代の参加を求める声もありましたので、検討と工夫が必要であると感じております。

4 学生が参加したことの印象について地域関係者に対して聞いた設問と、5 地域の方と接しての印象について学生に聞いた設問についても、他の地区同様、大変好印象で、学生の皆さんにとっても学び多いものになったことが見て取れました。学生の参加については、吹上地区の 6 名に対して、長者地区は 3 名と、各グループ実質 1 名ずつの配置となり、心細いのではないかと心配しておりましたが、終わってみれば全くそのようなことは無く、むしろ初対面の地域の方々ともすぐに打ち解けて、お互い笑顔で意見を交わす様子も見られ、改めて学生の皆さんとのポテンシャルに驚くとともに、大変頼もしく感じました。

次年度も、今年度の反省を踏まえ、参加者やプログラム構成を見直しながら、より良いものになるよう工夫し、引き続き八戸学院大学と連携を密にし、開催を継続していきたいと考えております。

私からの説明は以上です。

■池田会長

はい、ありがとうございます。立石委員から参加していただいた補足や率直なご感想などいただければと思います。

■立石委員

まず 2 日間という連続した日程でしたので、学生の確保が難しかったところはありました、前回に比べれば、学生の参加も多かったと思っております。今回は 3 年生の学生が中心でしたが、次年度は 2 年生が少ないので、来年度に向けて、日程も含めてご相談しなければならないと考えております。

アンケート結果を見ると、参加してよかったですという意見が多数だったので、私自身もほっとしております。

実際に、課題はどんどん出てくるんですけど、それをどうするかという継続した中で解決策を話し合っていくのが、この地域包括支援体制のあり方かなと思いますので、できれば各地域の中で大々的にやらなくても、こぢんまりとでも継続した話し合いを続けられるような仕組み作りが、これから求められるのかなと思っております。

率直な感想としては、いろんなグループの声を聞きましたけど、やはり道路であったり、交通の部分、道路が狭いとか、子供たちが危ないのではないかというような意見であり、空き家が多いということが共通したテーマだったかなと思います。

そして 2 回目だったと思いますけど、行政の方に何とかしてほしいというような訴えもありましたので、やはり一方的なものではなく、行政の方も一緒に入りながら話し合わないと、住んでいる方々も見通しを持ちながら生活したいと思うので、例えば、何年後か先

に整備の計画があるということとかが、お互いにわかれば、見通しが立つかなということもあったので、その辺りと一緒に協議できる場を、今後作っていければいいのかなと思っておりました。

まだまだ課題はあるとは思いますけど、継続して実施することに意義があるかと思います。併せて、新たな視点として学生の若い力も使いながら、地域のいろんな人たちが集まる場になっていくといいのかなと、こういった地道な活動を続けながら、地域を少しづつ耕していければ良いのかなと思っていました。私達も可能な限り協力させていただきますので、今後ともどうぞよろしくお願ひします。以上です。

■池田会長

ありがとうございます。長者地区でスーパーが遠い、買い物に苦労するっていう意見があつて、結構意外ですね。街中なので、買い物できるイメージでしたけど、意外に無いんだなあと。

■橋本委員

「みなどや」とか、前あったところがなくなったりはしています。

■立石委員

前にあって無くなった所が、集いの場でもあったみたいで、そういった意味でスーパーが無くなることの不安というか、買い物で集まって、ちょっと立ち話をするとといったところも、地域として交流の場になっているので、話題に出でました。

■池田会長

長者地区で考えると、セブンイレブンもあるんですよね。でも、そこにも行けない人がいるということかなと思ったんですよね。そんなに遠くないかなと思っていたんですけどね。

ありがとうございます。もし良ければ、水溜委員、地域の代表として何かお聞きしたいと思います。

■水溜委員

お話を聞いていて、吹上地区と長者地区が、区画整備組合が頓挫しているんですよ。糠塚地区を回っていくような大きい道路計画があったんですが、それが無くなったから、奥の方や公民館、図書館の方から入った辺りとか、道路が狭く、スーパーも建つ気配もない。あの辺が一番スーパーもないし、買い物するのも大変だし、道路も狭いし、街灯も暗いし、そういう感じがあると思いますね。

やはり道路幅を広くしたり、何かしてもらった方が良いと思いますよ。そういうのを行政の方にある程度は発信した方がいいと思う。

環境を見ていれば、防犯灯にしても、役所の方では、今 LED に全部交換してくれたりしていますけど、道路が狭いと、1 本立てるにしても大変ですよ。通学路を子供たちが歩くのに、逃げて歩かなきゃならないような様子もあるので。

■池田会長

ドーナツ化現象の酷さというのをやはり感じますよね。以前は中心部が主流だったのが、田向とか類家の辺りが住みやすくなっているというのは、そういうところかなと思いますね。

今回の二つのワークショップを対比して見られるのが面白いなと思うんですよね。比べて見て、同じものもあれば、違うものもあって面白いなと。だから、皆さんも意見が出しやすいのかなと思っていました。

■橋本委員

このようにワークショップを行って、課題が出てきますけど、じゃあ今年は、うちの町

内会ではこれについて取り組もうとか、そういう方向にいかないのかなと思いまして。例えば、ここで子供たちが通るときに誰か立った方がいいんじゃないとか、そういうことって、その町内会でやるしかないんですかね。

■水溜委員

柏崎地区ですが、連合町内会で年に2回から3回の情報交換会を行っています。諸団体の方とか、役所の方々とかが集まって会議をしています。そのときには、いろんな意見が各町内から上がってきていますね。ゴミの問題とか、それぞれの立場で発言して行っています。

去年、柏崎地区では、祭りの山車小屋について3~4年前から話し合ってきて、やっとできて6棟建っているんですが、やはりいろんな団体で集まって意見交換をすると、違う意見もあるし、そういう機会を作った方がいいのかなと思うんですよね。

行政には市民連携推進課があって、町内会の人にアドバイスしたりしていますけど、地区によって、何回か集まってやるとかしても良いかなと。

あとは、学校関係では地域連携協議会といって、小中学校の教育に対して意見を言う場があるんですよ。柏崎地区では、以前からやっているんですが、今も続いていますけど、児童たちの通学路とか、いろいろな意見を出す場があります。

■橋本委員

多分、回覧板とかでしか私達は町内のがわからないので、連合町内会でどんなことを話しているのかとか、地域でこういうことをいきましょうとかということは、回覧板でしかわからないような気がするんですよね。そこだけでやっていても、難しいような気がしていて。一般市民のボランティアができるようなものでもいいし、町内の人たちだけで、そこに集まってやるっていうようなことじゃなくてもいいんじゃないかなと思ったりもするんですけど。

■池田会長

そうですね、それぞれの町内会長さんもいて、連携されているっていうのが町内の作りになっていると思うんですけど、町内でも集まりはあって、水溜委員がお話しをいただいたように、話してはいると思うんですけどね。

ただ、出てこない人たちはわからなかったり、わかんないというよりは、自分も反省するところですけど、無関心なところもあるのかなと思っていて。そういう意味で、今回のワークショップは重要なことかなと思っていて、今集まるところがなくなってきたということが、一つあるのかなと思いますよね。

■橋本委員

だから、こういう空き家をカフェにとか意見が出ていましたけど、今すぐできるんじゃないかなと思うんです。じゃあ、それを誰がどうやってやるのかとか、町内だけで考えなければいけないのか、そこに行政の方が入ってくれるのかとか、そういう問題をクリアするまでに、結構なことが必要なんじゃないかなと感じます。

■池田会長

それは実体験としてあって。私、地域の集会所で介護予防教室をやっていたんですけど、それをやめた一つの理由が、町内の人人が鍵を開けるのが嫌だというのがあって、そういう責任を負いたくないというのが一番でしたね。やりたいけど、自分がその責任を負うのはみんな一步引いてしまうんですよ。コロナのとき、町内の人人が自主的にやりましょうと呼びかけても、結果的に責任を負うとなった時点で、じゃあいいですみたいな感じになってしまうというのが一つありました。

だから、今の繋がらない一つの要因が、町内の方でやってくださいとなると、やはり難

しい。第三者がやっていく仕組みを作れば、やりやすいのかなと感じました。なので、介護予防教室を高齢者支援センターの人たちが率先してやるのは、すごくいいなと思っていて、第三者が入る役割っていうのは重要なかなと思っていました。

その他、荻ノ沢委員、何かないですか。

■荻ノ沢委員

ワークショップで様々意見が出たんですけど、今後の取り組みというところで、私達センターの方で、会議をやっていて、今年3月に、ワークショップで出た課題について地域の方と話し合って、何か自分たちでできることがないかという形でやろうと思っていました。すぐ形になるとは思っていませんけど、そういった形で続けていければと話していました。

■池田会長

そうですね。たくさん意見が出ていますので、これ全部やるのは大変なことですけど、一つできそうなところを選択してやるというのが、重要なかなと思います。

最後に五十嵐委員からも。

■五十嵐委員

感想になるんですけど、やはりコミュニティに関する部分というのが、課題として出てきているような気がします。このコミュニティというのは、やはり世代間であったり、地域関連であったりということかと思いますが、これを解決するために、地域住民たちだけで、何かしようというのは確かに難しいかもしれない、例えば地区の社会福祉協議会なんかが、コミュニティのネットワーク化を進めていると思うので、そういったところが中心になって、コミュニティの促進を図る中で、いろんな業者さんであるとかが、可能な範囲で協力するというのはどうかなと思います。

■池田会長

そうですね。地域を地域だけで解決するのは難しいというのもありますからね。今回、企業が入ったりとか、いろんな人が入っているのも見ていたので、やはりいろんな人が入れば、地域の見守りとかもできてくるのかなと感じますよね。

ありがとうございます。ここは重点的に話をしました。その他、皆様大丈夫でしょうか。

それでは、続いての取り組みにまいります。(2)地域における取組みについて、事務局より説明をお願いいたします。

(2) 地域における取組み

■事務局（柏崎主査兼社会福祉士）

議事2 地域における取組みについて、説明をさせていただきます。

当市では、地域において、高齢者のニーズと支援できる活動主体とのマッチングや新たなサービスの創出、関係者同士のネットワークの構築などを役割とする第2層生活支援コーディネーターを12カ所の高齢者支援センターに2名ずつ配置し、地域で活動する体制を構築しております。

このたび、各圏域における活動内容を把握するとともに、各センター間でお互いの活動内容を共有することにより、さらなる活動の推進を図ることを目的に、どのような活動を行っているか、高齢者支援センターを対象にアンケート調査を行いましたので、その内容について報告させていただきたいと思います。

それでは、資料2-1をご覧ください。3ページに渡って、12カ所全てのセンターから回答があった内容を掲載しております。いずれのセンターにおいても、それぞれに工夫しながら、様々な取組みを行っていますが、本日はその中から、いくつかのセンターの取組み

をピックアップして紹介させていただきたいと思います。

まず、1ページ目の下から2つ目、三八城・根城地区高齢者支援センターみやぎにおける取組みですが、グループで運営しているデイサービスセンター岩泉町から休業日に施設を住民に開放し、地域貢献をしたいという相談を受け、連携して通いの場を開催しました。

実際にデイ岩泉町があるのは、吹上地区であったことから、柏崎・吹上地区の高齢者支援センター八戸市医師会とも連携し、開催内容の検討や住民への呼びかけ等を行い、11月に第1回目を開催しました。内容としては、デイで使用している運動器具を活用したマントトレーニングやカラオケ、ネイルケア、健康相談などを実施しています。

初回の反省を生かし、先日2月9日に第2回目を開催しました。資料2-2はそのときのチラシになります。第2回目はスマートフォンなどで歩いている様子などを撮影し健康診断が行える『トルト』というツールを活用し、参加者の歩行機能の診断を行い、必要な運動の提案などを行いました。参加者からは大変好評で、今後も継続して開催予定となっております。地域にある施設と連携して、通いの場の創出につながっただけでなく、複数の圏域の高齢者支援センターが連携して取り組んだ好事例であると感じております。

次に、2ページ目にある柏崎・吹上地区高齢者支援センター八戸市医師会における取組みの3つ目ですが、議事1でも説明させていただいたとおり、吹上地区では今年度ワークショップを開催し、参加者から様々な意見が出されました。医師会ではそこで出た意見を、地域関係者を参考し地域課題について話し合う地域ケア会議圏域会議という会議のテーマとして設定し、具体的に地域の中で解決するためにはどうしたらよいかを検討しようと計画しているとのことです。

具体的には、移動の足が無い、世代間交流の機会が無いという意見に着目し、それに応じた参加者として、地域にある自動車学校や福祉施設、障害福祉サービスの放課後等デイサービスの事業所など様々な地域関係者を参考して開催する予定と聞いており、今後新たな支援体制や住民同士の交流の機会の創出につながっていくことを期待しています。

ワークショップを開催すると、市が主催ということもあり、どうしても『市に対して声を届けられて満足』という雰囲気になってしまいがちですが、地域の中で解決していくためにはどうしたらよいかという方向に、進めていこうとする動きは、まさに生活支援体制整備事業における協議体とコーディネーターの役割であると感じています。

実は、医師会に限らず、今年度ワークショップを開催した、高齢者支援センターみやぎやちょうどじやの森でも同様の動きが見られており、このような流れを広げていければ感じております。

3つ目として、2ページから3ページにかけて記載している白銀南・鮫・南浜地区高齢者支援センター瑞光園における取組みで、3ページの2行目からの取組みですが、地域住民からの要望を受けて集いの場の開催に向けてサポートを行った事例となっています。

主体はあくまでも住民とし、瑞光園は関係機関とのネットワークやこれまでの活動のノウハウを生かして、講師などのマッチングやチラシの作成を行うなど、役割分担を行うことで、住民の自主的な活動を促し、結果として活動が長く継続できる仕組みが構築できていると感じています。資料2-3は、この取組みの中で健康講座を開催するにあたり、瑞光園で作成したチラシです。

他にも、瑞光園は地域と連携した様々な取組みを行っていますが、いずれにおいても、住民や関係団体との適度な距離感や役割分担、主体性を引き出すようなサポートの仕方が非常に上手く、他の圏域のセンターにとっても大変参考になるものであると感じています。

このように3カ所のセンターにおける取組みを紹介いたしましたが、今回アンケートを行いとりまとめたことで、全てのセンターにおいて、その地域の住民や関係機関と連携し

様々な取組みが行われていることが確認できました。高齢者の生活ニーズに合わせて、フードバンクや障害者就労支援事業所によるゴミ出し支援、地域住民による見守り支援など、介護保険以外のインフォーマルサービスをマッチングする取組みであったり、公民館や民生委員、町内会等の地域関係者と協力した体操会や健康教室、イベントの開催や講師とのマッチング支援など各センターが自分たちの経験やネットワークを生かして、活動を行っています。

先日、12カ所全てのセンターが参加する会議の中で、同じ内容を共有しましたが、各圏域において地域性に応じた取組みが進んでいくと同時に、センター同士がお互いの取組みを参考にしたり、時には相談し合うなどしながら、八戸市全体として活動が広まり、また深めていければと考えております。

以上で私からの説明を終わります。

■池田会長

はい、ありがとうございます。早速ですが、荻ノ沢委員、これに関するお話をいただければと思います。会議があったようなので、その内容もお聞きできればと思います。

■荻ノ沢委員

会議の内容は、デイサービスセンター岩泉町の生き生きサロンを行うまでの経緯や流れを説明させていただきました。11月に開催したんですけど、当初相談があつて、圏域的に医師会の地域だったので、医師会のセンターにも協力していただいて開催しました。最初の参加者は多くはなくて、カラオケで歌ったりされるのか不安もあったんですが、1人歌い出すと皆さん次々にという形で、すごく楽しまれていました。参加者の方からも次はいつやるんだとか、1ヶ月に何回かあってもいいとか、お話をありました。

2回目を2月9日に開催したときは、「トルト」ですね。医師会の方からのご提案で、お試しで取り入れてみたけど、大変好評で、実際に自分の筋力やバランスを見て、ここが弱ってきているという話とか、それに付け加えてどういった運動をすれば良いかといった話にもなり、皆さん熱心に参加していました。

ネイルケアも大変好評で、皆さん順番を待っているような感じで、一応はこの生き生きサロン、今後も継続していきたいというお話だったので、今後また相談しながら進めていきたいと思っています。

■池田会長

はい。ありがとうございます。では、五十嵐委員の方から、何かありましたら。

■五十嵐委員

お話を伺って、圏域会議の中で検討するということで、いろいろな社会資源を取り入れて計画していく、素晴らしい取り組みだと思います。

■池田会長

はい。ありがとうございます。本当にいろいろやられているのに驚きましたね。立石委員、八戸学院大学の柏葉先生の方が講師されているようです。

■立石委員

柏葉先生は、ハンドマッサージの方も研究もされているので、そういった点でも学生も協力して開催したりもできると思うので、日程も調整しながら関わっていければ良いのかなと。やはり、ただ話をしましょうだけだと、なかなか難しいので、ハンドマッサージなどをしながらであれば、やっている間に少し雑談をしたりということもできるので、若い人や多世代の交流ができるのかなと思っていました。

ワークショップ参加しても思いますけど、やっているところはやっているし、主体的な人たちは自主的に活動されているので、それを知らないので「何もない」「課題だ」と思う

かもしれません、やっているところはきっちり取り組まれているので、こうして収集して、好事例としてコーディネーターの人たちに共有することで、各地域での取組みがわかれ、うちでもできるのではないかというのが少しずつ増えていくと思います。

それによって、全体としてもいろんな取り組みができるし、最終的には住民が主体的に活動して、自分たちで声を上げ、行政あるいは包括の人ちょっと来てというような形になるのが一番いいのかなと思うので、すごく大事な取り組みをされているのかなと思います。

せっかくやっていること見える化していければ。なかなか高齢者となると SNS の PR だけでは難しいと思うので、スーパーに貼ったりとか、様々な形で紙媒体での PR も必要なのかなと思っていましたので、発信する役割も必要なのかなとお話を聞いていて思いました。

■池田会長

高齢者に対する媒体って工夫が必要ですよね。一番簡単なのは確かにチラシの折込みとか、新聞掲載とかっていう感じにはなるんですけど。

■橋本委員

どうしても紙媒体を必要としている人がたくさんいるんですよ。若い人は SNS でも何でも携帯でやれますけど、そうじゃない方ってやっぱり紙媒体がどうしても必要になってくる。

■池田会長

そうですね。

余談なんですけど、サードプレイス三沢というところをやっていまして、高齢者と若い人向けの活動をやっているんですが、新聞の折込みに入れると圧倒的に高齢者層が来るんですよ。ただ、やはり若い人が全然来ない。それで、SNS で上げてみると、全然違う。若い人ばかり来るので、その辺で、あからさまにわかるなということがあります。広告の仕方の難しさというのを感じますね。多分、コープさんもそうですよね。

■橋本委員

やはり紙媒体は、今のところは止められないなという結論になっています。

今回、うちの地区の回覧板で、是川・中居林のコーディネーターが、来週の火曜日に運動と認知症予防とかっていう企画をやるという回覧が載ってきたんですけど、それを見ると、平日ですし、子供たちは学校に行っているんですよね。

このコーディネーターが企画しているものの参加者は、65 歳以上と決まっているんですか。

■事務局（柏崎主査兼社会福祉士）

企画によると思います。やはり高齢者支援センターは高齢者の方の支援を主に行ってるので、基本的には高齢者が対象にとなるかと思いますが、厳密に 65 歳以上と決めているわけではないものもあるのかなと思います。

■橋本委員

若い人も対象にできれば一番いいんじゃないかなと思っていて、休日に開催すれば、子供たちも高齢者も集まれるのではないかなと思ったりして、その点も少し考えてみてもうえたらなと思いました。

■池田会長

そうですね。今お話をいただいたのは、すごくいいことで、地域全体でというふうに考えると、子供も若い人たちも親御さん達も、みんなが来れる場所というのが確かに理想なんですね。ただ、戻りますと、じゃあ誰を集めるのかなったときに、難しくなってしまうんですよね。今やっている取り組みはどっちかっていうと、高齢者ということで決まっているからいいんですけど、本当に包括的に考えたときに、誰でもいいよというのは結

構難しいんですね。だから、今後、より幅広く考えていいだらうなということを、お話を聞いていて思いますね。本当、理想型ですね。

■五十嵐委員

高齢者の生活支援に関して、コミュニティという部分がやはり弱くなってきてているということが出てくるので、高齢者を支援するための体制とすると、他の年齢層の人たちとのコミュニティも促進することが、すごく大事なことのように感じます。高齢者の生活支援をするのだから、高齢者だけではなくていいのかなという気がしますね。いろんな世代の人たちを巻き込んだ上で、高齢者の生活を支援するような体制を作るのが、いろんな社会課題を解決するのに役に立つのではないかと。

■池田会長

本来はそういう社会であったんだと思うんですけどね。それが実現不可能に近づいているというのも事実あって、どうやったら戻せるかというのが、今行っている取り組みに近いのかなと思います。

ただ、地域って壊れてしまうと、それを修復するって結構難しいのかなと思っていて、だからやはり時間をかけてゆっくりやっていかなければ、それ自体も実現不可能になってしまふのかなと感じますね。特にコロナが大きかったのかもしれないですね。ただ、コロナも抜けて結構活発になってきている様子もあるので、五十嵐委員が言ったように、地域のコミュニティもできてきたりするかもしれませんね。

あと、地域の祭りが今どんどん消滅していく、えんぶりとかはあるんですけど、地域での歩行者天国のような小さなお祭りが結構なくなってきたるみたいで、そういうのもできると、多分地域の人たちが盛り上がる一つの起爆剤にもなるかもしれないですね。

うちの地区では、細い道を年に1回封鎖して、出店呼んだりして、20年ぐらい前とかまでやっていたんですけど、今はやらなくなってしまいました。東京の方で盆踊りを復活させようと若い人たちが言って、今で言うクラブっぽい感じの盆踊りをやって盛り上げている町がありますね。そういうことが八戸でもできれば、多分地域の人たちの活気づきにはなるかもしれないですね。

水溜委員なんて、一番ご存知なんじやないかなと思うんですけど。

■水溜委員

今日のえんぶりなんかは、柏崎地区でも後継者を育てながらやっているし、法靈神楽とか、いろんな場所から声をかけられて行っています。それから、創作太鼓をやっている方が、地区の集会所で練習しているんですが、お祭りにも参加したりして活動されている。そういうことをされている方は、教育的にすごくいいと思うんですよね。規律正しく挨拶とか、いろんな人間性を作るには、すごくいいように感じる。

えんぶりなんかも、小さい子供からやっていて、踊っているわけじゃないけど、親御さんとかおじいさん、おばあさんみんなが連れて歩いて、教育的にはすごくいいと思う。

■池田会長

それこそ、本当に多世代交流ですね。

■水溜委員

南部町の方に行けば、手踊りとか民謡とかさせながら、お祭りなんかもやっているなど、そういうのもコミュニティというか、繋がりじゃないのかなと。

■池田会長

そうですね。今日、小中学校は休みんですけど、えんぶりの日は学校休んで参加していいよっていう、そういうのは八戸の良いところですよね。ありがとうございます。やはり、お祭りって、そう考えるとすごい大事ですよね。

皆さんその他、何かございますか。大丈夫でしょうか。

はい、では次に進みたいと思います。(3)生活支援コーディネーターの変更について、事務局より説明をお願いいたします。

(3) 生活支援コーディネーターの変更

■事務局（岩間主事兼社会福祉士）

地域包括支援センターの岩間と申します。議事3 生活支援コーディネーターの変更については、私から説明をさせていただきます。着座にて失礼いたします。資料3-1をご覧ください。

生活支援体制整備事業においては、市の役割として、主に協議体の設置と生活支援コーディネーターの配置の大きく2つの事が求められています。

その中で、生活支援コーディネーターについては、市包括支援センターと市内12カ所の高齢者支援センターの専門職が兼務をする形で配置をしております。市包括支援センターのコーディネーターを第1層コーディネーターとし、市全体に係る事業の実施に向けた対応を、高齢者支援センターのコーディネーターを第2層コーディネーターとし、地域レベルでの活動をそれぞれ行い、相互に連携しながら、地域における社会資源の開発、関係者同士のネットワークの構築、高齢者のニーズと社会資源のマッチング支援等を行っています。

このたび、配置職員の異動等があり、高齢者支援センターに配置している、第2層のコーディネーターに変更がありましたので、報告いたします。下長・上長地区高齢者支援センターはくじゅにおいて、松田社会福祉士から遠藤社会福祉士へ変更となっております。

なお、引継ぎなどについては、これまで同様に、前任者やセンター内の別のコーディネーターからの引継ぎを基本としつつ、必要に応じて、市包括からも事業の説明を行っていきたいと考えております。

資料3-2は、今回の変更を反映した生活支援コーディネーターの一覧です。市包括に3名と高齢者支援センターに各2名の、合計27名体制となっております。引き続き、連携をしながら本事業を推進していきたいと思います。

以上で、議事3の説明を終わります。

■池田会長

はい、ありがとうございます。これに対して、皆様からご意見等ございますでしょうか。

本日の案件は以上でございますが、他にご発言はございませんでしょうか。

今回は内容の濃いワークショップの説明だったと思いますので、次回のワークショップに生きていくのかなと感じていました。

委員の皆様、本日はご意見をありがとうございました。これをもちまして議事を終了して、進行を事務局へお返ししたいと思います。よろしくお願ひ致します。

次第3. 閉会

■司会（江渡地域包括支援センター所長）

池田会長、ありがとうございました。委員の皆様からも貴重なご意見をたくさんいただきました。今後の包括の運営に生かしていくよう、努めてまいります。大変ありがとうございました。

これをもちまして、令和6年度第2回八戸市生活支援体制整備推進協議会を閉会いたします。委員の皆様、大変お疲れ様でした。